

私には弟が2人、妹が3人います。弟2人はそれぞれ違う障がいを持っていて、中学一年生の弟は、発達障がいや知的障がいを持っていて、小学校3年生の弟は情緒の障がいを持っています。そんな弟たちと生活する中で私が感じることがあります。

小さな頃、私が小学校3年生ぐらいの時、弟が障がいを持っている事が分かりました。弟は元から「できるようになる」が周りよりも少し遅い子でした。その時はそれをふしぎだと思ったけど「ただおそいだけ」だと大人は言うから、そんなに気にしていなかったと思います。そんな中で分かった弟の「障がい」を理解しているようで理解はしてないみたいなのそんな風に生活していました。

小さな頃から転校が多い家だったので、転校・転入にはなれていました。でもある時の転校で弟が「支援級」という先生たちが弟を「支援」してくれるクラスに入りました。その時は、弟と自分の「違い」を少し理解しました。

話は変わりますがみなさんは「アスペルガー症候群（AS）」というのを聞いたことがありますか？あまり聞かないかもしれませんがこのアスペルガー症候群と似たものに自閉症があり、この2つはどちらも「自閉症スペクトラム」というグループに分けられます。この中には発達障がいも入り、私の弟はここにあてはまります。ちなみにこの自閉症スペクトラムの人の割合は人口の約1%いるそうです。100人に1人ということなんです。この1%という数字は、世界人口の中で英国人である割合と同じぐらいなのだそうです。でも自閉症スペクトラムの方々に外見的特徴はないので、もしかしたら知らない間にすれ違っているかもしれません。この人たちは苦手を持つかわりに大きな長所を持つ人が多かったです。たとえば、「常識にとらわれないユニークな発想の持ち主」だったり、「正義感の強い優しい人」だったり「自分の気に入ったものを暗記するのが得意な人」など、それぞれの長所があるそうです。しかしこれらの長所もその人と関わる人が理解していなければ、「変だ」、「真面目でかたくなるしい」「過集中だ」などと短所としてとられてしまうこともあります。そのようなことになる前に私たちが理解して、その理解を示すことが大切です。私の弟はポケモンがとても好きで、多くのポケモンの名前、タイプ、技などを覚えていきます。私にはとても無理だと思うし小さなことに感じるかもしれませんが普通に覚えようとしたら、とてつもない時間があるような、とてもすごいことだと思います。

今例にあげたもの以外にも障がいと呼ばれるものはたくさんあります。身近な例でいうと、「ADHD」や「AD」「チック」などを聞いたことはありませんか？「ADHD」とは小さなミスが多かったり、忘れ物、なくしものが多かったり過集中だったりしてしまったり、また逆に気が散ってしまったりなどがあるそうです。「LD」は、文字や計算が極端に苦手であったりします。「チック」は望んでいるわけではないのに、勝手に

体のどこかが動いてしまう、声が出てしまうなどのことがあるようです。今挙げただけでも、全部違うのが分かりますよね。

私は弟たちにすごく感謝しています。それは弟たちが障がいを持っていて良かったという訳ではありません。弟たちのおかげで、そういう存在を知り、理解することができているので、今後障がいを持つ人に出会ったときのコミュニケーションにいかすことができるからです。障がいを持つ人が増えている今の日本で、私たちに大切なのは、障がいのある人と話し、ふれあい、その人その人を「個」として理解していくことだと私は思います。そうすれば、障がいを持つ人がもつと生活しやすくて、自分らしくいられるようなところ、世の中になるのではないのでしょうか。

私はこれからも「人を理解する」ことを忘れずにたくさん人と関わって、私にも、弟たちや友人にも良い環境を作っていきたいです。